

2021年度第1回 執行理事会議事録

日程：2021年7月10日（土）13:00-18:00

【WEB会議】

出席：磯崎，中澤，佐々木，松田，高嶋，矢部，辻森，星，亀高，大藤，小宮，狩野，緒方，坂口，山本（監事），岩部（監事）

欠席：平田・ウォリス・岡田

事務局 澤木

- *定足数（過半数：9）に対し，14名の出席
- *前回議事録（20-13回）の内容が確認され確定した。

報告事項

1. 全体的報告

- ・緊急事態宣言からまん延防止等重点措置への移行に伴い新型コロナウイルス感染拡大防止に関する学会の対応を6/21付でHPに掲載した。引き続き対面形式の学会主催行事の開催を控え，事務局は交代でテレワークを継続する。
- ・静岡県熱海伊豆山地区土石流についての会長コメントを発表した（7/6付学会HP掲載）
- ・地球全史スーパー年表（地質学会監修，2014年 岩波書店発行）の増刷が決定した。（4刷，500部，2021年8月予定）

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

- ・地学オリンピック日本委員会2021年度協賛団体加入依頼があり，承諾した。
- ・資源地質学会第70回年会(6/30-7/2オンライン開催)の協賛依頼があり，承諾した。
- ・日本地球化学会第68回年会（9/1-21オンライン・弘前大学でのハイブリッド開催）への共催依頼があり，承諾した。
- ・令和3年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦（学会締切9/3）【→geo-flash，ニュース6月号掲載】
- ・2021年度「朝日賞」候補者推薦依頼（8/25締切；学会締切8/2）【→geo-flash掲載】
- ・藤原ナチュラルヒストリー振興財団 学術研究助成（非動物分野：地学・植物）（9/1）【→geo-flash，ニュース7月号掲載】
- ・第43回（令和3年度）沖縄県急奨励賞推薦（学会締切9/3）【→geo-flash，ニュース7月号掲載】
- ・石油資源開発株式会社より，役員就任のご挨拶を頂いた（代表取締役社長：藤田昌

弘)

- ・株式会社パスコより役員就任のご挨拶を頂いた(代表取締役社長:島村秀樹)
- ・無機マテリアル学会より役員就任のご挨拶を頂いた(会長:山本岳司)
- ・NPO日本地質汚染審査機構より役員就任のご挨拶を頂いた(理事長:高嶋 洋)

<会員>

1. 今月の入会者(58名)
正会員:(6名)
正(院割)会員(48名)
正(学部割)(4名)

2. 今月の退会者(6名)
正会員(6名) サヤンタニ チャタルジー 伊藤忠英・小野藍生・石川正憲・尾上裕子・河原畑智朱

3. 今月の逝去者(1名)
茂野忠良(逝去日:2020年9月22日)

4. 2021年6月末会員数
賛助:27, 名誉:40, 正会員:3238 [正:3171, 院割:64, 学部割:3] 合計3305(昨年比-138)

<会計>

- ・自然史学会連合2021年度分担金(2万円/年)を納入した。
- ・土質・地質技術者生涯学習協議会(ジオスクーリングネット)(8万円/年)を納入した。
- ・地学オリンピック日本委員会2021年度協賛金20万円(1口5万円, 4口)を予算通り送金した。

<その他>

- ・クラウド化進捗報告:クラウドサービスの導入コストを選挙等のオプション費も含めて、買い取り、レンタルのケースに分けて5年分の中期的コストを2社比較した。現状のシステムの保守管理コストよりも安くなるケースもある。使いやすさ、セキュリティ、コストを考慮し、実際に試用してみても来月以降に提案する。

3. 広報委員会(坂口・小宮)

1. 広報委員会(坂口)

- ・ジオルジュ編集会議を7/6に行った。コロナ感染状況により取材、編集作業に影響が出ている。次号と次々号の取材を平行して進める。
- ・Q&A 1件、TV番組からの質問1件が寄せられ、順次対応中。
- ・Q&Aの運用に関して課題が顕在化してきたので、広報委員会で議論して小宮理事から修正案を提案する。

4. 学術研究部会(辻森・ウォリス・星)

1. 行事委員会(星)

- ・2021名古屋大会について

1. 演題登録を6/30に締め切った。申込数338件(口頭183件、ポスター155件。例年は550-600件)。現在世話人によるプログラム編成(7/9締切)、要旨校閲作業中(7/16締切)。セッションは朝8時から開始なので周知徹底する。

2. 誌面ブース:18機関より申込があった。賛

助会員に対して無料掲載の追加案内を行う。

3. 業界研究サポート:オンライン式で関連企業と学生の情報交換を行う。関連企業20社が参加し、大学77校87学科に周知する。

4. ジュニアセッション:参加募集中(8/2締切)

5. その他:地質情報展(10/8-10)、市民講演会など現地開催イベントはコロナの状況に応じて対応する。

- ・第4回ショートコース:参加申込を7/5に締め切った。受講申込者数72。特に学生・若手研究者の参加を増やすために追加募集を行うこととし、geo-Flash臨時号を出して案内する。
- ・第5回ショートコース:講師2名決定。10月3日(日)開催予定今後宣伝していく。

2. 専門部会連絡委員会(辻森)
特になし

3. 国際交流委員会(ウォリス)
特になし

4. 地質標準化委員会(辻森)
・地質年代表の日本語表記について誤記があるので、慎重に確認の上修正予定。

5. 編集出版部会(大藤・狩野)

1) 地質学雑誌編集委員会(大藤)

(1) 編集状況報告(7月9日現在)

- ・2021年投稿論文:24 [内訳] 論説12(和文11, 英文1), 総説1(和文1), レター3(和文3), 報告2(和文2), ノート3(和文3), 口絵3(和文2, 英文1)
- 査読中:29, 受理済み:10(うち特集号5)
- ・127巻6月号:名古屋巡検案内書3, 通常号論説1, レター1, 報告1(65頁, 校正中)
- ・127巻7月号:特集「日本海拡大に関連したテクトニクス, 堆積作用, マグマ活動, 古環境」総説1, 論説3, レター1, 通常号レター1(55頁, 入稿中)

(2) 雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項(→審議事項へ)

2) アイランドアーク編集委員会(狩野)

- ・投稿状況が報告された。今号出版済み32編。編集集中(受理済み込み)7編。例年よりやや順調。
- ・ISI Journal Citation Reports Ranking:2020:160/199(Geosciences Multidisciplinary), IF:1.558
- ・国内外他雑誌とのIF比較が紹介された。

3) 企画出版委員会(小宮)
特になし

6. 社会貢献部会(松田・矢部・高嶋)

1. 地学教育委員会(高嶋)

- ・名古屋大会ジュニアセッション参加校募集中:6/23に過去の参加校、愛知県内の高等学校、名古屋市周辺の中学校等へ参加案内を発送した(8/2締切)

2) 地質技術者教育委員会(佐々木)

- ・名古屋大会オンライン企業訪問企画について
- ・JABEE地球・資源分野運営委員会報告:2020年度審査は、継続審査が3校(2021年10月頃実地審査予定)、2021年度審査は、

予備審査1校(上記)、中間審査1校、継続審査1校、予備審査は2021年度中に行う。中間と継続審査の実地審査は2022年10月頃の予定。

- ・地球資源分野運営体制:新体制の任意団体に移行する。構成各学会から運営委員を推薦する。新組織もJABEEからの審査料と繰越金で運営される。

3) 生涯教育委員会(矢部)
特になし

4. 地震火山地質子どもサマースクール(松田)
特になし

5) 地質の日(矢部)

- ・街中ジオ散歩:6/27に街中ジオ散歩の実行委員会会合をオンラインで実施した。秋に実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて中止する。来年度5月の開催に向けて準備を進めるが、当初計画のあった横浜だけでなく、千葉での実施も検討していく。12月に開催の可否を判断する。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会

1) 利益相反マネージメント委員会(中澤)
特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1. ジオパーク支援委員会(委員長天野:代理平田)

- ・7月2日に日本ジオパーク学術支援連合設立総会が開催され、日本ジオパーク学術支援連合(JGASU:ジェイガス)が設立された。(代表 天野一男:日本地質学会、副代表 青木賢人:日本地形学連合)。

2. 地学オリンピック支援委員会(高嶋)
出題者を学会より推薦し、決定された。

3. 支部長連絡会議(平田)
特になし

4. 地質災害委員会(松田)

- ・防災学術連携関係の以下の研究会に参加(参加予定):

7月7日開催 第8回Web研究会 地理情報システム学会 テーマ:「防災・減災支援における地理情報システムの可能性」中澤参加

8月3日開催予定 第3回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」テーマ:「激化する気象災害への備え」松田参加予定

5. 名誉会員推薦委員会(佐々木)
特になし

6. 各賞選考委員会(中澤)
特になし

7. ジェンダー・ダイバーシティ委員会(委員長堀 利栄)

- ・座談交流会「地質分野の多様性を増やすには:持続可能で開闊な学会を目指して」を8月1日に開催する。Geo-Flash定期号で周知する。
- ・名古屋大会でのダイバーシティ認定ロゴ試行のため、各セッション世話人に対し、主旨とロゴデザインの連絡を行い、大会での周知協力を依頼した。今回は試行である

ため、ロゴは単一化し、付与の認定基準を緩和する方向で調整することになった。

8) 法務委員会（委員長 松田博貴；代理 中澤）

・地質学雑誌掲載論文中の引用表記について、会員から指摘があり、127巻7号で訂正記事掲載を対応中。

9) 連携事業委員会（中澤）

特になし

9. 研究委員会

1) 地質環境長期安定性研究委員会（委員長 吉田英一）

特になし

2) 南極地質研究委員会（委員長 小山内康人）

特になし

I 審議事項

1. 選挙管理委員会メンバーの選任

各分野から5名の候補者を検討した。理事会に提案する。

2. 文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）

推薦依頼（1件）があり検討の結果、推薦することとした。

3. 雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項

大藤編集委員長より電子化に関して、口絵、特集号、巡検案内書、連載講座、会員限定公開と早期公開、ページ数制限、オープンファイル、データ共有ポリシー、別刷、カラー料金、ページ超過金、オンデマンド印刷などの取り扱いについて編集委員会での検討内容が報告された。これに合わせて出版規則および各細則の改定案が提案された。9月の理事会への提案を目指して詳細を詰める。また電子化に合わせてカラー料金不要のメリットを活かした和文ならではの「紹介解説」などの新カテゴリも編集委員会に検討してもらうこととした。電子媒体の閲覧が難しい会員のためのオンデマンド印刷対応は料金シミュレーションを行って具体的な実施プランを提案予定。

4. 竹内圭史会員への感謝状贈呈について

竹内会員からの寄付に対して学会として謝意を表すこととする。今後のためにも寄付者に対する感謝状について内規を定めて運用する。

5. 野外地質学に関する若手育成事業について
寄付金を原資とした若手育成事業の検討チーム（磯崎、亀高、星、矢部、中澤）を立ち上げ、事業案の検討を進めている。新賞の設立や助成金制度など4つの原案が紹介された。引き続き具体的な検討を進め理事会に提案する。

6. フィールドマスター認定制度について

若手育成事業に関連して2018年のフィールドマスター認定制度WGで検討された内容が報告された。検討当時から時間が経っていることから、本件は地質技術者教育委員会で引き取って継続審議することとした。

7. 各賞の賞金廃止の是非について

学会各賞の顕彰と賞金のあり方について関連他学会の状況も比較して議論した。一部賞の賞金廃止の方向で、9月の理事会での提案を目指して継続審議とする。

8. 名古屋大会ポスター賞の選考方法について
オンライン大会のためe-poster形式となる。その場合、従来のポスターと表現方法が大きく異なるため、優秀ポスター賞の選考方法や選考基準を変更する必要があるか議論された。表現方法は変わってもポスター発表の評価ポイントは変わらないので、例年通りの選考を行うこととする。また、ジュニアセッションの選考方法とも齟齬がないようにする。

9. 学術大会の追加企画案

オンライン大会の特性を活かした新規企画案が議論された。(1) 地質学露頭紹介、(2) 学生と駆け出し地質屋集合！アカデミックな情報交換を楽しむ会、(3) ベテラン・シニア懇親会、(4) 支部同窓会。行事委員会で具体化してもらうこととした。

10. 個人情報の取り扱い

オンライン行事が増え、イベントの申込などを行う機会が増えたこともあり、学会活動の中で、個人情報を収集、取り扱う場合には必ず「日本地質学会プライバシーポリシーに従う」と明示することを再確認した。

11. 2021年度第2回（臨時）理事会の議事および資料の確認

選挙管理委員会の設置/名古屋大会の準備状況報告/地質学雑誌の電子化準備状況報告/Island Arc編集報告ほか

12. 今後の学術大会開催地の選定について

大会開催地については、これまでの支部単位でのローテーションを超えて、支部や地域の希望を積極的に募ることとする。

以上

2021年8月1日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長（代表理事）磯崎行雄

署名人 執行理事 中澤 努

2021年度第2回 執行理事会議事録

日程：2021年8月1日（日）13:00-17:30

【WEB会議】

出席：磯崎、中澤、佐々木、松田、高嶋、矢部、辻森、星、亀高、大藤、小宮、坂口、平田・ウォリス、岡田、岩部（監事）

欠席：緒方、狩野

事務局 澤木

*定足数（過半数：9）に対し、15名の出席

*前回議事録（21-1回）の内容が確認され確定した。

報告事項

1. 全体的報告

・学会運営検討タスクフォース会合を開催し、シニア世代と若手（学生・院生）の年会費や大会参加費について、また地質学雑誌電子化に関わる運用や規則改正などについて議論した。年会費などの重要事項については来年総会での決議を目標にして議論を進める。

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

1. 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集等>

・大日本コンサルタント株式会社、株式会社ダイコンサルタントより完全親会社DNホールディングス株式会社設立のご挨拶があった。

・令和3年度宮崎県教育委員会学芸員採用選考試験実施の案内【→geo-flash、ニュース7月号掲載】

<会員>

1. 今月の入会者(1名)

正（学部割）会員：清水光希

2. 今月の退会者（2名）

正会員（2名）：徳間正一・飯塚亮太

3. 今月の逝去者(1名)

正会員(1名)：仲 二郎（逝去日：2021年1月20日）

4. 2021年7月末会員数

賛助：27、名誉：40、正会員：3234 [内訳 正会員：3167、院割：64、学部割：3] 合計 3301 (昨年比-138)

<会計>

・防災学術連携体2021年度会費（3万円）を納入した。

<その他>

・伊藤谷生名誉会員より寄付（12万円）の申し出をいただき、謹んで篤志をお受けした。

・会員管理システムのクラウド化について、進捗状況の報告があった。

3. 広報部会（坂口・小宮）

1. 広報委員会（坂口）

・英語HPの受賞者情報を更新するため、受賞対象テーマ等の受賞者の英訳情報を確認、収集中。

・ニュース誌大会プログラム記事の編集作業が遅れたため、冊子発行（発送）に1週間程度の遅延が生じる見込み。

4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）

1. 行事委員会（星）

・2021名古屋大会について

1. 追加イベント（① 学生と駆け出し地質屋集合！アカデミックな情報交換を楽しむ会/② 地質学露頭紹介/③ ベテラン・シニア懇親会）を実施する。①②は要申込。大会サイトから申込受付中（8/19締切）。

2. 懇親会懇親会や打ち合わせ等に利用するため、同様の他ツールと比べ契約料が安い仮想空間ツール「oVice」（オヴィス）を導入する。

・第4回ショートコース：受講申込者数120名

- (実受講者数111名).
- ・第5回ショートコース：8月下旬より申込受付開始.
 - 2. 専門部会連絡委員会 (辻森)
特になし
 - 3. 国際交流委員会 (ウォリス)
・IGC 2024 BusanのHPに日本国内巡検コースが表示されているが、決まっているわけではない。未定であることを韓国地質学会やIGCに確認をとる.
 - 4. 地質標準化委員会 (辻森)
特になし
 - 5. 編集出版部会 (大藤・狩野)
 - 1) 地質学雑誌編集委員会(大藤)
 - (1) 編集状況報告 (7月30日現在)
 - ・2021年投稿論文：25 [内訳] 論説13 (和文12, 英文1), 総説1 (和文1), レター3 (和文3), 報告2 (和文2), ノート3 (和文3), 口絵3 (和文2, 英文1)
 - 査読中：28, 受理済み：12 (うち特集号5)
 - ・127巻7月号：特集「日本海拡大に関連したテクトニクス, 堆積作用, マグマ活動, 古環境」総説1, 論説3, レター1, 通常号レター1 (55頁, 校了)
 - ・127巻8月号 通常号 論説2, レター1, 報告2 (入稿準備中)
 - ・現在査読中のものの一部が電子化後の出版になりそうである
 - (2) 雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項 (→審議事項へ)
 - 2) アイランドアーク編集委員会(狩野)
直近の投稿状況などが報告された
 - 3) 企画出版委員会 (小宮)
特になし
 - 6. 社会貢献部会 (松田・矢部・高嶋)
 - 1. 地質教育委員会 (高嶋)
 - ・名古屋大会ジュニアセッション参加校募集中. 応募数8 (8/1現在). 8/2締切予定. 申し込みが少ないため, 締切を延長して対応する.
 - 2) 地質技術者教育委員会 (佐々木)
 - ・7月26日に2021年度第3回委員会を開催した.
 - ・JABEE地球・資源分野運営体制の変更について：分野の幹事学会である資源・素材学会から, 構成4学会による独立した運営組織に変更したい旨の提案があった
 - ・委員会のHPの修正
 - 3) 生涯教育委員会 (矢部)
特になし
 - 4. 地震火山地質子どもサマースクール (松田)
 - ・来年に延期した浅間大会の現地調査を8月17日に実施し, 来年もハイブリッド (現地+リモート) になった際の動画コンテンツ作成等の検討を行う.
 - 5) 地質の日 (矢部)
特になし
 - 7. その他執行理事会の下に設置される委員会
 - 1) 利益相反マネジメント委員会 (中澤)
特になし

- 8. 理事会の下に設置される委員会
 - 1. ジオパーク支援委員会 (委員長天野：代理 平田)
コンソーシアムの運営について各学会からの意見を集約中.
 - 2. 地学オリンピック支援委員会 (高嶋)
特になし
 - 3. 支部長連絡会議 (平田)
特になし
 - 4. 地質災害委員会 (松田)
 - ・8月3日開催の防災学術連携体主催のシンポジウム「激化する気象災害への備え」に松田が参加する.
 - ・8月6日開催の防災学術連携体総会に中澤常務理事が出席する.
 - 5. 名誉会員推薦委員会 (佐々木)
特になし
 - 6. 各賞選考委員会 (中澤)
特になし
 - 7. ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (委員長 堀 利栄)
 - 8/1にワークショップを開催した. 約40名参加. 若手会員から学会への要望などについても活発な意見交換があった.
 - 8) 法務委員会 (委員長 松田博貴：代理 中澤)
特になし
 - 9) 連携事業委員会 (中澤)
特になし
 - 9. 研究委員会
 - 1) 地質環境長期安定性研究委員会 (委員長 吉田英一)
特になし
 - 2) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)
特になし
 - その他
 - ・若手チームによるSNS広報を, 学会オフィシャルチャンネルと並行して実施
- I 審議事項
 - 1. 地質学雑誌電子化に関わる規則改正と下記検討結果を取りまとめ, 次回9月理事会に諮る.
 - ・口絵(Pictorial)をフォト(Photos)に改める
 - ・オープンファイルをJ-Stage Dataのデータファイルとして公開する 搭載は外注 (年額3-6万円程度)
 - ・現行規則での出版序は受付順だが, 受理順に改める
 - ・特集号は, 全ての論文が公開された後に Virtual Issueとしてまとめる
 - ・別刷りを有償オプションとして残す
 - ・電子版であっても現行規則通りページ制限を設ける (超過分には負担金)
 - ・オンデマンド印刷は3年間 (程度) 移行措置として印刷費・送料実費負担で残す
 - ・過去論文を含め公開論文PDFの保護を外す方向であることを会員に周知
 - 2. 各賞の賞金廃止の是非について議論した. 各賞は栄誉を授けることが目的であること,

また学会の財政状況及び他学会の表彰状況も鑑みて賞金は廃止する方針を理事会に諮る.

以上

2021年8月28日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長 (代表理事) 磯崎行雄
署名人 執行理事 中澤 努

2021年度第3回 執行理事会議事録

日程：2021年8月28日 (土) 13:00-18:30

【WEB会議】

出席：磯崎, 中澤, 佐々木, 松田, 高嶋, 矢部, 辻森, 星, 亀高, 大藤, 小宮, 坂口, 平田, ウォリス, 岡田, 緒方, 狩野, 岩部 (監事)

欠席：

事務局 澤木

*定足数 (過半数：9) に対し, 17名の出席
*前回議事録 (21-2回) の内容が確認され確定した.

報告事項

1. 全体的報告
 - ・学会運営検討タスクフォース中間報告 (会員種別, 会費, 大会参加費の変更について)：9月理事会で中間報告・意見聴取, 12月理事会で承認, 次年度総会で決定を目指す.
 - ・地質学雑誌電子化による2022年度以降の会計収支効果の想定：電子化による支出減と収入減の相殺で年間約180万円の減額効果となる. 9月理事会で報告予定.
 - ・山田科学振興財団2021年度研究援助 (地質学会推薦1件) については, 不採択の通知があった.
2. 運営財政部会 (緒方・亀高)
 - 1. 総務委員会
 - <共催・後援依頼, 他団体の募集等>
 - ・第31回社会地質学シンポジウム (11/27-27開催) への後援依頼があり, 承諾した. 【→geo-flash, ニュース9号掲載】なお, 「環境地質学シンポジウム」の名称を30年の節目を契機に「社会地質学シンポジウム」に変更するとのこと
 - <会員>
 1. 今月の入会者(7名)
正会員：里和玲伊 畑中孝明 山本真之助
正会員 (院生割)：柴田翔平 金田泰明 小山雪之丞 伊藤泰輔
 2. 今月の退会者 (2名)
正会員 (2名) 佐志啓未 大西 滯
 3. 今月の逝去者(なし)
 4. 2021年7月末会員数 (前回報告済み)
賛助：27, 名誉：40, 正会員：3234 [内訳

正会員：3167、院割：64、学部割：3] 合計3301 (昨年比-138)

<会計>

- ・ワイリーより2020年分の印税の入金があった(2,000,796円)。
- ・宝島社より「やばすぎ! 古生物図鑑 第2刷」の印税の入金があった (167,860円)。

<その他>

- ・クラウド化進捗状況について、8/10 ウェッジソフトウェア(株) (WS社) との打合せ結果について報告があった。会費納入は次年度から、選挙は次回からの運用を予定している。現行システムとの比較を9月理事会で報告予定。

3. 広報部会 (坂口・小宮)

1. 広報委員会 (坂口)

- ・名古屋大会プレスリリースを予定 (8/30投じ込み予定)
- ・JICAから関係大学等にJICA事業に関わったアフガニスタン人(留学生、研修員など)の個人が特定される可能性が高い英語コンテンツについて、非表示/削除の依頼があった。ニュース誌、HP掲載の活動報告等記事で該当するものはない。
- ・「新」ニュース誌プランを検討中 (→審議事項へ)

4. 学術研究部会 (辻森・ウォリス・星)

1. 行事委員会 (星)

- ・2021名古屋大会:
 - ・大会参加登録者数 (8/19締切): 601名 (会員551/非会員50)、講演予定数: 353件 (口頭182/ポスター171)
 - ・新型コロナウイルス感染状況を受け、予定していた日程(10/8-10)での開催を中止となった。今後の開催については日時・方法を検討中。
 - ・シンポジウムは名古屋大会会場を公開予定であったが、完全オンラインで対応することになった。
 - ・第5回ショートコース: 申込受付を開始した(9/21締切)。

2. 専門部会連絡委員会 (辻森)

特になし

3. 国際交流委員会 (ウォリス)

- ・2024年韓国開催予定のIGC37関係の巡検とその協力体制について: 基本合意の確認も含めて、巡検コースについて韓国側と早期に打ち合わせる必要がある。

4. 地質標準化委員会 (辻森)

特になし

5. 編集出版部会 (大藤・狩野)

1) 地質学雑誌編集委員会(大藤)

(1) 編集状況報告 (8月15日現在)

- ・2021年投稿論文: 26 [内訳] 論説14 (和文13、英文1)、総説1 (和文1)、レター3 (和文3)、報告2 (和文2)、ノート3 (和文3)、口説3 (和文2、英文1) 査読中: 22、受理済み: 9 (うち特集号5)
- ・127巻8月号 通常号 論説2、レター1、報告2 (計56頁、校了済)
- ・127巻9月号 入稿準備中

(2) 地質学雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項

- ・9月理事会で承認内容の確認 (一部細則は12月理事会での承認を目指す)

2) アイランドアーク編集委員会(狩野)

- ・編集状況の報告があった。投稿数が減少している。

3) 企画出版委員会 (小宮)

特になし

6. 社会貢献部会 (松田・矢部・高嶋)

1. 地学教育委員会 (高嶋)

- ・名古屋大会ジュニアセッション参加校、応募数15で締め切った。E-posterの審査を理事へ依頼予定。

2) 地質技術者教育委員会 (佐々木) 【報告資料04】

- ・8月17日に第4回委員会を開催し、以下について検討した。

- ・JABEE地球・資源分野運営体制変更案について

- ・業界サポート研究について

- ・フィールドマスター制度について

3) 生涯教育委員会 (矢部)

特になし

4. 地震火山地質こどもサマースクール (松田)

- ・8月16-17日に現地(浅間山)中継テストと今後の打合せを実施した。来年の実施内容については、来年3月に判断する。2年連続で実施が見合わされているが、準備・運営に関わる支出は発生しているため、学会からも拠出金を出している。今年度の会計報告もきちんと確認すること。

5) 地質の日 (矢部)

特になし

7. その他執行政理事会の下に設置される委員会

1) 利益相反マネージメント委員会 (中澤)

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1. ジオパーク支援委員会 (委員長天野: 代理 平田)

- ・8/6に委員会を開催し、7/2日本ジオパーク学術支援連合会 (JGASU) 設立総会の内容が報告された。JpGUジオパークレギュラーセッションは今後JGASUの主要事業として進めることなどが議論されている。

2. 地学オリンピック支援委員会 (高嶋)

特になし

3. 支部長連絡会議 (平田)

特になし

4. 地質災害委員会 (松田)

- ・8/3防災学術連携体主催のシンポジウム「激化する気象災害への備え」参加報告 (松田)。

- ・8/6開催の防災学術連携体総会参加報告 (中澤)

- ・11/6-7に開催予定の第6回防災推進国民大会 (ほうさいこくたい2021) に、防災学術連携体からも日本学術会議と共同で出展予定 (応募済)。今回は特に人文社会系の

学協会からの多くの発表を期待している。

5. 名誉会員推薦委員会 (佐々木)

- ・委員構成を12月理事会で承認予定。

6. 各賞選考委員会 (中澤)

特になし

7. ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (委員長 堀 利栄)

- ・日本地質学会第128年学術大会 (名古屋大会) でのダイバーシティ認定ロゴ導入を試験的に導入する。ロゴ付与希望の申し出のあった該当セッション、講演に対して、ロゴを付与した。

- ・男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバー参加が承認された。12/13運営委員会で新規加盟学協会として地質学会を代表して磯崎会長が挨拶を行う。

8) 法務委員会 (委員長 松田博貴: 代理 中澤)

特になし

9) 連携事業委員会 (中澤)

特になし

9. 研究委員会

1) 地質環境長期安定性研究委員会 (委員長 吉田英一)

特になし

2) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)

特になし

I 審議事項

1. 『日本列島地質総覧—日本列島の地史・地質環境・災害—』(仮) (産総研監修、朝倉書店) への編集協力依頼について内容を精査して返答するとこととして継続審議とする。

2. 「新」ニュース誌プラン
広報委員会からニュース誌の魅力アップのためにコンテンツ案が示された。カラー化、PDF版のアーカイブ化なども合わせて検討することとして、継続審議とした。

3. 地質学雑誌のJ-STAGE公開PDFのセキュリティ解除について

地質学雑誌掲載論文(学術データ)の適切な利用を促進するためにJ-STAGE公開PDFの保護を解除する。過去のJ-Stageにアーカイブされている論文についても解除作業を進める。業者に費用と納期を問い合わせる。

4. 2022年度代議員および役員選挙について
選挙に向けて、告示文書、スケジュールが提案され、承認された。正副会長の会員の意向調査の実施を12月の理事会に諮る。

5. 理事会審議事項の確認

9月の理事会に下記の審議事項が提案され、承認された。

1. 地質学雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項

2. 地質学雑誌編集委員会のメンバー補充

3. 各賞の賞金の廃止について

4. 野外地質学に関する若手育成事業について

以上

2021年9月11日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）磯崎行雄
署名人 執行理事 中澤 努

2021年度第4回 執行理事会議事録

日程：2021年9月11日（土）10:00-12:00

【WEB会議】

出席：磯崎、中澤、佐々木、松田、高嶋、矢部、辻森、星、亀高、大藤、坂口、平田、岡田、緒方、狩野

欠席：ウォリス、小宮

事務局 澤木

*定足数（過半数：9）に対し、15名の出席

*前回議事録（21-3回）の内容が確認され確定した。

報告事項

1. 総務委員会

<会員>（緒方）

1) 今月の入会者 なし

2) 今月の退会者（1名）

正会員（1名）白波瀬輝夫

3) 今月の逝去者 なし

4) 2021年8月末会員数

賛助：27、名誉：40、正会員：3289〔内訳正：3170、院割：111、学部割：8〕合計3356（昨年比-79）

<会計>

・2021年1月から8月末までにご寄付いただいた方（50音順、敬称略）：磯崎行雄、伊藤谷生、竹内圭史、橋目敏行、山路 敦。なお、用途明記の寄付金は理事会での報告・承認が必要のため、理事会でその旨説明する。今回該当する方々は全て報告・承認済み。

2. その他

・IGC2024(釜山)の国際協力体制について、基本合意の確認も含めて、巡検コースについて韓国側と早期に打ち合わせを進める。近日WEB会合開催予定（ウォリス理事出席予定）。

・ジェンダーダイバーシティ委員会主催の座談交流会報告。近日ニュース誌に報告記事掲載予定。

・学会の表彰体系変更の要点を賞募集時にニュース誌で説明する。また、特に個人名がついた賞については、どのような主旨の

賞であるか対外的に学会HP等で説明する方が良いとの意見があり、対応することとした。

審議事項

1. 『日本列島地質総覧—日本列島の地史・地質環境・災害—』（仮）（産総研監修、朝倉書店）への編集協力依頼について

必要な文献の引用がなされていない部分が散見されるなどの問題を解消するよう朝倉書店へ伝えることとした。継続審議。

2. 理事会審議事項の確認

下記の審議事項と関連資料を確認した。

1) 各種委員会メンバーの追加補充

2) 地質学雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項

3) 各賞の賞金廃止について

4) 野外地質学に関する若手育成事業について

以上

2021年10月9日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長（代表理事）磯崎行雄

署名人 執行理事 中澤 努

表紙紹介

第12回惑星地球フォトコンテスト：ジオ鉄賞 古の海洋堆積物から見上げて

写真：藤岡比呂志（岐阜県）

撮影場所：岐阜県長良川鉄道 美並菟安駅～赤池駅（下り赤池駅の20秒ほど手前で撮影）

撮影者より：長良川鉄道は下りの場合、湯の洞温泉口駅～徳永駅の約50分間は長良川沿いを通り、露頭を見ながら、地質に関わりながらの旅となります。付加体堆積物である美濃帯堆積岩類の中を主に走り、写真の場所はメランジュからなり、チャート層と泥岩基質の混在岩が見られます。すみきった快晴の中、はるか昔に堆積した海洋堆積物から列車を見上げているという時間のひとこまを切り取ってみました。

講評・解説：岐阜県的美濃太田駅（美濃加茂市）と北濃駅（郡上市）を72.1kmで結ぶ長良川鉄道。美濃帯のダイナミックな付加体構造をほぼ南北に縦断しながら走ります。撮影された第3長良川橋梁の架かる区間は1928年（昭和3）に開通しました。作品では露岩の質感を手前に大きく見せ、それを昭和初期のプラットトラス1連が引き立てています。角度が異なる背後の道路橋もアクセントに。新緑に映えるロイヤルレッドの車体は、クラウドファンディングと地元の支援を経て2018春にデビューした観光列車ながら3号「川風号」、ながら1号「森号」、2号「鮎号」と共に地元素材を満載した水戸岡鋭治氏デザインの車両として人気です。ジオの存在感、そして、鉄道があって初めて生まれるジオ鉄の風景、その両方の魅力を知る撮影者の思いが伝わる写真でした。（藤田勝代：深田研ジオ鉄普及委員会）